

丹野貞子さんへの取材

かたるべ会の副理事長を務めている丹野貞子さんは素晴らしい女性です。

丹野さんは46歳の時から16年間の横浜市議員を経て、62歳から老人ホーム RAKUの施設長として就任し、75歳のいまでも現役で努めています。

このような素晴らし履歴の持ち主はどんな出身ですか？なぜこのようなエネルギーに溢れていますか？理由を探するため2012年6月12日、かたるべ会の取材チームの菊池、宮崎、唐戸、カンとゲストメンバー平野の5人が丹野さん取材しました。

(菊池さん) どうしたら丹野さんのようなエリート的女性になれるのですか？

(丹野さん) 私はたたき上げですが、何事も最後までやり通すことです。

(宮崎さん) 仕事と家庭の両立はどうしたら出来ますか？

(丹野さん) 食費から家具の購入まで、主人と全て折半してきた。(経済的自立)

男の人に食べさせてもらう事がイヤだから……

(宮崎さん) 兄弟はいますか？

(丹野さん) 男2人、女5人の7人兄弟(15歳で全員働きに出た)

(宮崎さん) お子さんは？

(丹野さん) 男1人、女1人の2人

そして、丹野さんにいままでの履歴をおしえていただきました。

① 出身地はどこですか、若い時何を勉強しましたか？

昭和11年大阪で生まれ、兄弟7人の大家族で、家の経済的な理由で、中学校を卒業して、15歳から NEC に12年間努めました。勉強が好きだから、勤めながら夜間高校を卒業しました。

② 丹野さんのご家庭、育児と仕事の両立のことでご紹介いただけませんか？

17歳の時、失恋の機に、労働運動にスイッチが入った。

労働組合の活動をした時、いまの旦那と出会って、結婚し、NECのお仕事をやめました。

子供の世話と家事の合間を利用して、ピアノを習って、保母の資格を取って、昭和42年—45年の3年間で子供を扱っている保育園で保母として働きました。

③市会議員になる前どんな仕事していましたか

日本電気、多摩保育園、生活クラブ生協の仕事をしてきました。

④ 市会議員なるきっかけは何ですか

「市会議員はどんな仕事をしているのか？」という好奇心と先輩議員の推薦

⑤ 高齢者福祉と障害者の福祉、どんなことに取り組みましたか

当選初期 寄せられた市民からの相談、年間160件をこなすことが議員経験の蓄積に大きく役に立ちました。その中でライフワークとして社会福祉の問題を見つけて、その時からに取り組み始めました。

2期目 米軍機墜落の犠牲になった和枝さんの遺志を引きつぎ知的障害者の授産施設「愛」の設立に携わり、今も和枝福祉会の会長を務めています。また副理事長としてかたるべ会にも携わっています。

3期目-4期目 2期いろいろな福祉活動が認められて「横浜市高齢化社会特別委員会」の初代委員長を就任して、高齢者住宅問題の総合指針や高齢者小規模特養ホームの設置や高齢者福祉、障害者の自立へグループホームの拡充など障害者福祉に携わりました。

⑥ 何故61歳で、認知症のグループホームを始めたのですか？

認知症や、国の介護保険などに興味があって、是非やって見たいと思った。
また、地域で認知症高齢者を受け入れる施設がなかった。

⑦ 中国にいらっしゃったのはいつでしたか

1977年2月日中交流訪中代表団の団員として中国の北京をはじめいろいろなところに訪問しました。いままで中国に三回に訪問してきました。

いま中国の「史記」を読んでいます。いろいろ勉強になります。

最後に丹野さんから皆さんへのメッセージをお願いします。

- ① 何事に対しても好奇心を持つこと
- ② 本を読むこと
- ③ 人と本気で付き合っていれば、必ず結果はでる。
- ④ 若い時こそ沢山苦労したほうが良い
- ⑤ 若い時の経験は将来役に立つ

2時間の取材はアッという間に終わりました。

丹野さん：ありがとうございました。また会いましょう。



丹野さんとかたるべ取材チームのみんな

編集後記

中国から日本に留学に来て、10年間以上たちました。驚くのは、21世紀の今日、アジアで一番民主主義、現代的な日本の社会は今だに男尊女卑の社会構造です。普通に女性は結婚したら、会社をやめて、旦那さんは世帯主で、奥さんは扶養家族になってしまいます。家庭中心としての生活とアルバイトをする女性は多いのです。

社会構造の枠を超え、社会に影響を与えるぐらい仕事をしながら、家庭で家事、育児とのバランスを取り、人格的男女平等、経済的自立な日本の女性丹野さんと出会って、お話を聞かせていただき、これから丹野さんのような女性が日本の社会でどんどん活躍すれば日本は必ず男女平等の社会に変わると思います。(管)